

教科名	ビジネス	科目名	総合実践Ⅱ	単位数	3	対象	3年生
担当者	及川泰徳・鈴木くに子・益田昌味・但木文美恵・松本進・小澤一成						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			独自プリント				105
学期	月	指導内容	指導目標				時数
1 学期	4	オリエンテーション	・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。 ・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。				45
	5	時事テーマ：働き方改革・ニューノーマル	・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。 ・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。				
	6	時事テーマ：働き方改革・ニューノーマル	・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。 ・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。				
	7	社会分析と論述の書き方について	社会での出来事を多角的に分析することと、社会の現状分析の手法を理解する。				
2 学期	9	社会問題の理解と論述の作成	自分が考える社会問題等整理し、論述の作成を理解する。				54
	10	社会問題の理解と論述の作成	自分が考える社会問題等整理し、論述の作成を理解する。				
	11	論述をもとにしたプレゼンテーション	論述からのプレゼンテーション技術のマスター				
	12	論述をもとにしたプレゼンテーション	論述からのプレゼンテーション技術のマスター				
3 学期	1	論述をもとにしたプレゼンテーション	論述からのプレゼンテーション技術のマスター				6
	2						
	3						
評価の観点	趣 旨					評価の方法	
知識・技能	各指導内容について、日本の時事ニュースや社会問題に関する知識及び技能の習得状況を評価の観点とする。					<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ファイル提出 ・グループワークや発表 ・レポート提出 	
思考・判断・表現	各指導内容について、日本の時事ニュースや社会問題に関して思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価の観点とする。					<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ファイル提出 ・グループワークや発表 ・レポート提出 	
主体的に学習に取り組む態度	年間の授業を通じて、日本の時事ニュースや社会問題に関する知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、主体的に学習に取り組む態度であるかを評価の観点とする。					<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション ・ファイル提出 ・レポート提出 	

教科名	ビジネス	科目名	課題研究 Webデザイン	単位数	3	対象	3 学年
担当者	松本 進・古溝 匠						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			自作プリント				105
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	1. オリエンテーション 2. WEBサイト制作の基礎		・授業の進め方と年間スケジュールの確認 ・インターネットの仕組みやWEBサイトの構成など、webに関する基礎的な知識を理解させる。			49
	5	3. HTMLの基礎		・HTMLによるプログラミングについて、架空のWebサイトの作成をおこない、WEBページの文書構造に関する知識と技能を理解させる。			
	6	4. HTMLとCSSの基礎		・CSSによるプログラミングについて、架空のWebサイトの作成をおこない、WEBページの見栄えを整えるための知識と技能を理解させる。			
	7	4. HTMLとCSSの基礎		・HTMLとCSSによるプログラミングについて、架空のWebサイトの作成をおこない、WEBページの知識と技能を理解させる。			
2 学 期	9	5. WEBサイトの公開		・WebサーバーやFTPソフトなど、WEBサイトを公開するために必要な機器やソフトウェアや公開の方法についての知識と技能を理解させる。			50
	10	6. WEB素材の作成		・WEBサイト制作に必要な写真・ロゴ・ボタン・アイコンなどのWEB素材の作成をおこない、より効果的なWebサイトの作成に関する知識と技能を理解させる。			
	11	7. デザインキャンプの作成実習		・WEBサイト制作に必要なワイヤーフレームやデザインキャンプの作成をおこない、より効果的なWebサイトの作成に関する知識と技能を理解させる。			
	12	7. デザインキャンプの作成実習		・WEBサイト制作に必要なワイヤーフレームやデザインキャンプの作成をおこない、より効果的なWebサイトの作成に関する知識と技能を理解させる。			
3 学 期	1	8. WEBページに動きを出す 9. スマートフォン用WEBサイトの作成		・WEBサイトに動きを出すための手法や、スマートフォンやタブレットなど、さまざまなデバイスに対応した「レスポンシブWEBデザイン」の作成をおこない、より効果的なWebサイトの作成に関する知識と技能を理解させる。			6
	2						
	3						
評価の観点	趣 旨					評価の方法	
知識・技能	各指導内容について、WEBデザインに関する知識及び技能の習得状況を評価の観点とする。					・提出課題 ・ファイルの提出 ・授業レポートの提出	
思考・判断・表現	各指導内容について、より効果的なWebサイトを作成するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価の観点とする。					・提出課題 ・ファイルの提出 ・授業レポートの提出	
主体的に学習に取り組む態度	年間の授業を通じて、Webデザインに関する知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、主体的に学習に取り組む態度であるかを評価の観点とする。					・提出課題 ・ファイルの提出 ・授業レポートの提出	

教科名	ビジネス	科目名	課題研究(ソーシャルビジネス)	単位数	3	対象	3学年選択者
担当者	藤井 宏之						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
						105	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	○キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム(基礎編)		・実社会のまち・社会をつくるプロジェクトを題材に、探究するチカラを習得する。 ・SDGsの17の目標とターゲット169個を理解する。			35
	5	○キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム(基礎編)		・実社会のまち・社会をつくるプロジェクトを題材に、探究するチカラを習得する。 ・SDGsの17の目標とターゲット169個を理解する。			
	6	○キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム(実践編)		・探究するチカラを発揮しながら、主体的に探究する。 ・SDGsの17の目標とターゲット169個を理解する。			
	7	○キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム(実践編)		・探究するチカラを発揮しながら、主体的に探究する。 ・SDGsの17の目標とターゲット169個を理解する。			
2 学 期	9	○プロジェクト学習		・「開発途上国の社会課題をビジネスのチカラで解決する」について「IDEAL」5つのステップを用いる。			60
	10	○プロジェクト学習		・「開発途上国の社会課題をビジネスのチカラで解決する」について「IDEAL」5つのステップを用いる。			
	11	○パフォーマンス課題		・SDGsの視点から「開発途上国の社会課題をビジネスのチカラで解決する」を題材にし、ポスターセッションを英語でおこなう。			
	12	○パフォーマンス課題		・SDGsの視点から「開発途上国の社会課題をビジネスのチカラで解決する」を題材にし、ポスターセッションを英語でおこなう。			
3 学 期	1	○地球ひろば訪問		・地球ひろばへ訪問して、SDGsについて理解する。 ・青年海外協力隊の方の講演を聞き、JICAの活動等を理解する。			10
	2						
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		「実社会のまち・社会をつくるプロジェクト」と「開発途上国」、「SDGs」に関する基礎的・基本的な知識と、情報を適切に活用できる技術を身につけている。			授業態度 課題・提出物等による評価		
思考・判断・表現		「SDGs」と「ビジネス」の視点から「社会課題」の課題解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、収集した情報の分析をしたり効果的に表現することができる。			課題・提出物等による評価		
主体的に学習に取り組む態度		「SDGs」と「ビジネス」の視点から「社会課題」の課題解決するための、情報の収集・分析・表現の基礎的・基本的な知識と技術を身につけようと意欲的に取り組んでいる。			授業態度 出欠等による評価		

教科名	商業	科目名	課題研究（会計）	単位数	3	対象	HR31～HR36
担当者	及川泰徳・福田秀隆						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			プリント等			105	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学 期	4	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級の基礎問題演習		全商簿記検定1級・日商簿記検定2級の分野別基礎演習問題を通して、簿記会計の内容の理解を図る。		49	
	5	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級の基礎問題演習		全商簿記検定1級・日商簿記検定2級の分野別基礎演習問題を通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
	6	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級の基礎問題演習		全商簿記検定1級・日商簿記検定2級の実践演習問題を通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
	7	・期末確認テスト		全商簿記検定1級・日商簿記検定2級の実践演習問題を通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
2 学 期	9	・大学センター試験の「簿記」		簿記での大学受験に対応した計算力を身につけるため、簿記会計の基礎プリントを通して、簿記会計の内容の理解を図る。		50	
	10	・財務諸表の作成 ・確認テスト		決算整理事項から、貸借対照表・損益計算書の財務諸表を簿記会計の基礎プリントを通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
	11	・連結会計(連結1年度)		連結財務諸表作成のために、個別会計上の処理を連結ベースの処理に連結修正仕訳として行い、簿記会計の基礎プリントを通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
	12	・期末確認テスト					
3 学 期	1	・連結会計(連結2年度) ・まとめ		連結財務諸表作成のために、個別会計上の処理を連結ベースの処理に連結修正仕訳として行い、簿記会計の基礎プリントを通して、簿記会計の内容の理解を図る。		6	
	2						
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		全商簿記実務検定1級の理解を身に付ける。 日商簿記検定2級の基礎理解を身に付ける。			期末確認テスト等による評価 提出課題による評価		
思考・判断・表現		会計の原理を活用しての論理的思考を養う。 財務諸表作成における完成度を養う。 電卓を使用した計算技術を身に付ける。			仕訳・帳簿・財務諸表作成技術による評価 提出課題による評価		
主体的に学習に取り組む態度		職業人として必要な人間性を育み、自ら学び、ビジネスの創造と発展に取り組む態度を養う。			出席率・授業態度 提出課題状況等 正確性等による総合評価		

教科名	ビジネス科	科目名	課題研究「観光」	単位数	3	対象	3学年
担当者	益田 昌味						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			自作プリント			105	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	オリエンテーション 現代社会と観光について 日本のインバウンドの現状についての調査 観光に関する統計調査・現状分析		観光が企業・地域・人へもたらす効果を理解させる。 現状のデータをもとに分析・考察をさせる。			49
	5	観光に関する統計調査・現状分析 観光に関する日本の取り組みや動向調査 訪日外国人の旅行内容の比較・調査		現状のデータをもとに分析・考察をさせる。 日本が行っているインバウンドへの取り組みを把握させ、課題点や解決策を考えさせる。			
	6	観光とマーケティングについて 観光産業について		観光産業の種類を把握させ、観光とマーケティングとのつながり（地域引力を引き出す方法）を理解させる。			
	7	筆記考査					
2 学 期	9	観光ビジネスプランの企画・立案		インバウンド向けの新たなサービスを企画するため、現状分析を行わせ、ターゲットや事業計画、収支計画などの考え方を理解させる。			50
	10	観光ビジネスプランの企画・立案		インバウンド向けの新たなサービスを企画するため、現状分析を行わせ、ターゲットや事業計画、収支計画などの考え方を理解させる。			
	11	観光ビジネスプランの企画・立案		インバウンド向けの新たなサービスを企画するため、現状分析を行わせ、ターゲットや事業計画、収支計画などの考え方を理解させる。			
	12	観光ビジネスプランの企画・立案		インバウンド向けの新たなサービスを企画するため、現状分析を行わせ、ターゲットや事業計画、収支計画などの考え方を理解させる。			
3 学 期	1	観光ビジネスプラン発表		個人もしくはグループで企画・立案したビジネスプランの成果発表を行い、課題を発見させる。			6
	2						
	3						
評価の観点	趣 旨				評価の方法		
知識・技能	観光に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、現代社会における観光の役割を正しく理解している。また、ビジネスプランを企画・立案する方法を正しく理解している。				考査素点による評価 課題評価表による評価		
思考・判断・表現	観光に関する諸問題を客観的に把握し、その解決のために計画を立案し、実施して、得られた成果を表現できる。				課題評価表による評価		
主体的に学習に取り組む態度	観光に関する知識と技術について関心をもち、それらを習得するために意欲的に取り組んでいる。また、観光に関する実習・活動を主体的、創造的に行う意欲と態度を身につけようとしている。				出席率・授業態度・ファイル提出・提出課題提出状況などの総合評価		

教科名	ビジネス	科目名	課題研究(経済)	単位数	3	対象	3学年選択者
担当者	親泊 寛昌・高橋 健太						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
			自作プリント			105	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学期	4	オリエンテーション ディズニーランドの経済学 経済主体と経済学の基本		経済主体は身近なもので、その働きなどは大きく違い、その状況を理解、分析できないと経済の指標等を理解できないので、わかりやすく講義する		35	
	5	行動経済学 トレードオフ・機会費用・大きい政府・小さい政府		欲求と選択が経済の基本的要素、ここから、経済の基礎的な考え方と国レベルでの経済の取り扱いを考える。			
	6	古典派経済学とケインズ経済学の比較分析		アダムスミスの考え方からケインズまでの経済の考え方の変化と特徴を理解して、分析できるようにする。			
	7	ドラッカーの経営学		様々な組織を理解するためにドラッカーの経営学を用いて組織のあり方などを理解させる。企業の事例から考えていく。			
2 学期	9	民間企業の経営(イオンの経営)からの影響を学ぶ・財閥(人物)から考える経済(岩崎弥太郎・渋沢栄一など)		企業経営と日本経済の基礎と作り上げた人物の理解をしていく。過去から現在までの過程をわかりやすく講義する		60	
	10	株式による経済の影響と企業経営について・GDPについて(みずほ証券との模擬株式投資体験)		投資の分野から企業経営そして、経済への影響を分析できるように実践から入る。みずほ証券の模擬株式投資体験を実践の取り組みとして活用する。			
	11	株式による経済の影響と企業経営について・GDPについて(みずほ証券との模擬株式投資体験)		投資の分野から企業経営そして、経済への影響を分析できるように実践から入る。みずほ証券の模擬株式投資体験を実践の取り組みとして活用する。			
	12	株式による経済の影響と企業経営について・GDPについて(みずほ証券との模擬株式投資体験)		投資の分野から企業経営そして、経済への影響を分析できるように実践から入る。みずほ証券の模擬株式投資体験を実践の取り組みとして活用する。			
3 学期	1	経済学に関する論述テーマの調査書作成		経済に関する論述を作成する(調査書)		10	
	2						
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		「経済主体と経済」と「経済と経営」、「行動による変容」に関する基礎的・基本的な知識と、情報を適切に活用できる技術を身につけている。			定期考査による評価 課題・提出物等による評価		
思考・判断・表現		「ケインズ経済学と古典派経済学」の視点から「社会課題」の課題解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、収集した情報の分析をしたり効果的に表現することができる。			授業態度・課題・提出物・発表等による評価		
主体的に学習に取り組む態度		「経済学」と「ビジネス」の視点から「社会課題」の課題解決するための、情報の収集・分析・表現の基礎的・基本的な知識と技術を身につけようと意欲的に取り組んでいる。			出席状況・授業態度・課題・提出物等による評価		

教科名	ビジネス科	科目名	課題研究 「広告企画」	単位数	3	対象	3学年
担当者	早田 智洋						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			自作プリント			105	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学 期	4	販売促進の概要 プロモーションミックス4P 消費者ニーズ 購買効果		販売促進の役割と内容を把握させ、消費者ニーズとターゲティングの重要性について理解させる。		49	
	5	プロモーション 広告とは 消費者理解 プロモーションの流れ 広告の種類・主体別対象者別分類		統合型マーケティングによる一貫的な活動やブランド価値の育成についての重要性を理解させる。			
	6	広告業界の概要 広告ビジネス 広告会社・業界の現状と分類 広告業の業務の流れ		情報通信技術の進化が業界全体に変化をもたらしていることを理解させ、広告会社の業務内容や現状などを理解させる。			
	7	デザインの基礎 アイディアの発想法 デザインの目的の具体化 コンセプトの作成・視覚化 ウェビング法・チェックリスト		広告表現における重要な要素を認識させ、企画・立案・制作・印刷などの方法について理解させる。			
2 学 期	9	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について、実践的広告デザイン実習「企画・計画・制作・印刷」を体験し、広告の方法・表現・効果などについて理解させる。		50	
	10	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について、実践的広告デザイン実習「企画・計画・制作・印刷」を体験し、広告の方法・表現・効果などについて理解させる。			
	11	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について、実践的広告デザイン実習「企画・計画・制作・印刷」を体験し、広告の方法・表現・効果などについて理解させる。			
	12	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について、実践的広告デザイン実習「企画・計画・制作・印刷」を体験し、広告の方法・表現・効果などについて理解させる。			
3 学 期	1	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について、実践的広告デザイン実習「企画・計画・制作・印刷」を体験し、広告の方法・表現・効果などについて理解させる。		6	
	2						
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		広告に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、現代社会における広告の役割を正しく理解している。また、消費者の購買行動を正しく理解し、その過程に応じた広告の方法を正しく理解している。			パフォーマンス評価 提出課題 課題評価表による評価 技能習熟実技テスト 提出課題[技術の習熟度定着度]		
思考・判断・表現		広告に関する諸問題を客観的に把握し、その解決のために計画を立案(思考)し、実施(判断)して、得られた成果を表現できる。また、広告に関する実習・活動をこれまでに学習した知識や技能を活用し、表現できる。			パフォーマンス評価 提出課題 課題評価表による評価 提出課題[作品の表現技法] 制作書式・コンセプトシートの完成度		
主体的に学習に取り組む態度		広告に関する知識と技術について関心をもち、それらを習得するために意欲的に取り組んでいる。また、広告に関する実習・活動を主体的、創造的に行う意欲と態度を身につけようとしている。			ポートフォリオ評価 出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況		

教科名	ビジネス	科目名	課題研究「商品開発」	単位数	3	対象	3年生
担当者	但木 文美恵・ 鈴木 くに子						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			自作プリント				105
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学期	4	オリエンテーション 商品と商品開発		商品の成り立ちおよび何を商品として考えるかについて理解する。			49
	5	商品と商品開発 商品の多様化 商品調査		技術革新、経済の国際化、消費生活の変化、地球環境の保全などによる多様な商品の提供について考えを深める。商品開発の意義、商品のライフサイクル、商品開発の手順と考え方について理解する。			
	6	商品と商品開発 商品調査 商品の企画		消費者を取り巻きさまざまな環境分析の内容とその結果をもとに企業が意思決定を行う過程を理解する。 情報を収集・整理し、自分の言葉で発表できる。 身近な企業の商品企画・商品開発事例を学習する。			
	7						
2 学期	9	商品の企画 商品企画演習		身近な企業の商品企画・商品開発事例を学習する。 市場調査の方法や商品コンセプトについて理解する。 ブレインストーミングやKJ法を用いて商品コンセプトを考える演習をする。			50
	10	商品の企画 商品企画演習 コンテスト参加		商品名・商品コンセプト・キャッチコピー・商品イメージ・開発背景・競合商品に対する優位性を含めた、具体的な商品企画書を作成する。			
	11	商品の開発 商品企画演習 コンテスト参加		商品企画書に基づき、社内むけのプレゼンテーションを行う実習をする。 商品の仕様と仕様書、試作について理解する。			
	12	商品の開発 商品企画演習		商品テストによって、商品コンセプトの仮説検証を行うことの重要性について理解する。 パッケージデザインの機能や種類について理解し、具体的な事例を調べる。			
3 学期	1	商品開発とデザイン		パッケージデザインを作成する実習を行う。			6
	2						
	3						
評価の観点	趣 旨					評価の方法	
知識・技能	商品開発に関する基礎的・基本的な知識を身につけているか。 顧客満足を実現することの重要性について理解したうえで商品の企画ができてきているか。					定期考査による評価 課題・提出物等による評価	
思考・判断・表現	商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して思考を深めているか。 身につけた知識を活用して適切に判断しているか。また、企画についてわかりやすく発表できたか。					授業態度・課題・提出物・発表等による評価	
主体的に学習に取り組む態度	商品開発に関する知識と技術について関心をもち、それらを習得するために意欲的に取り組んでいる。また、実習等の活動を主体的、創造的に行う意欲と態度を身につけようと取り組んでいる。					出席状況・授業態度・課題・提出物等による評価	

教科名	ビジネス	科目名	コミュニティーデザイン演習	単位数	2	対象	3学年選択者
担当者	親泊 寛昌 ・ 藤井 宏之						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
			・自作プリント			70	
学期	月	指導内容	指導目標			時数	
1 学 期	4	ガイダンス・コミュニティーデザインについて	学校設定科目としての「コミュニティーデザイン」の理解			30	
	5	豊島区子ども若者課プロジェクト	豊島区の子ども若者課と連携した取り組みを実施。基礎知識としての豊島区の理解				
	6	豊島区子ども若者課プロジェクト	豊島区の子ども若者課と連携した取り組みを実施。基礎知識としての豊島区の理解				
	7	豊島区子ども若者課プロジェクト	豊島区の子ども若者課と連携した取り組みを実施。基礎知識としての豊島区の理解				
2 学 期	9	コミュニティーデザインの事例研究	コミュニティーデザインの事例からの講義・活動			35	
	10	コミュニティーデザインの事例研究	コミュニティーデザインの事例からの講義・活動				
	11	自己研究（ハローマイプロジェクト）	様々なコミュニティの研究を実施する				
	12	自己研究（ハローマイプロジェクト）	様々なコミュニティの研究を実施する				
3 学 期	1	自己研究（ハローマイプロジェクト）	様々なコミュニティの研究を実施する			5	
	2	自己研究発表会	様々なコミュニティの研究を発表する				
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		プロジェクト活動に関する基礎的・基本的な知識と、情報を適切に活用できる技術を身につけている。			実践活動とプレゼンテーション評価 提出課題 課題評価表による評価		
思考・判断・表現		論述による完成度を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、収集した情報の分析をしたり効果的に表現することができる。			筆記・論述完成度評価 提出課題 課題評価表による評価		
主体的に学習に取り組む態度		プロジェクト活動をするための、情報の収集・分析・表現の基礎的・基本的な知識と技術を身に付けようと意欲的に取り組んでいる。			ポートフォリオ・コミュニティーデザインノート評価 出席率・授業態度		

教科名	ビジネス	科目名	ビジネス経済応用	単位数	2	対象	3学年選択者
担当者	親泊 寛昌						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
ビジネス経済応用：実務出版			ビジネス経済応用：実務出版			70	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学 期	4	・オリエンテーション ・マーケターの実践 産業構造の変化と労働		企業経営の基礎、基本もしっかりと理解する。また国際経済を学ぶために実際の企業と連携した授業を実施する。		29	
	5	・企業経営の特色・企業経営と外部環境 ・ANA(全日本空輸・日清食品ホールディングスの事例と新聞記事)		産業構造の変化を知るための最新情報を入手して発表・討論できるようにする			
	6	・サービス産業の現状 ・ベンチャー企業のサービスから考える (H.R.I株式会社)		・サービス産業の現状 ・ベンチャー企業のサービスから考える (H.R.I株式会社)			
	7	・サービス産業の現状 ・ベンチャー企業のサービスから考える (H.R.I株式会社)		・サービス産業の現状 ・ベンチャー企業のサービスから考える (H.R.I株式会社)			
2 学 期	9	企業の知的財産権についての学び (パナソニック株式会社との連携授業)		企業経営におけるマネジメントに関する分析をする		34	
	10	企業の知的財産権についての学び (鹿島建設株式会社との連携授業)		企業経営におけるマネジメントに関する分析をする			
	11	株式投資および国際経済情勢についての分析		みずほ証券等との連携した株式投資から社会情勢を知る授業を展開する			
	12	株式投資および国際経済情勢についての分析		みずほ証券等との連携した株式投資から社会情勢を知る授業を展開する			
3 学 期	1	企業の社会的責任およびSDGsの取り組みを実施する		様々な企業によるSDGsの取り組みを調査して発表を実施する		7	
	2						
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		「企業の基本的な経営知識」と「マネジメント」、「SDGs」に関する基礎的・基本的な知識と、情報を適切に活用できる技術を身につけている。			定期考査による評価 課題・提出物等による評価		
思考・判断・表現		「企業マネジメント」と「ビジネス」の視点から「社会課題」の課題解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、収集した情報の分析をしたり効果的に表現することができる。			授業態度・課題・提出物・発表等による評価		
主体的に学習に取り組む態度		「企業マネジメント」と「ビジネス」の視点から「社会課題」の課題解決するための、情報の収集・分析・表現の基礎的・基本的な知識と技術を身につけようと意欲的に取り組んでいる。			出席状況・授業態度・課題・提出物等による評価		

教科名	商業	科目名	会計総合	単位数	4	対象	HR31～HR36
担当者	福田秀隆						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			全商簿記実務検定1級・日商簿記検定2級問題集			140	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学 期	4	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級出題範囲		第1問 仕訳の問題 第2問 個別・計算の問題		58	
	5	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級出題範囲		第3問 決算の問題 第4問・第5問 工業簿記の問題			
	6	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級出題範囲		第1問 仕訳の問題 第2問 個別・計算の問題 第4問・第5問 工業簿記の問題 全商簿記実務検定1級・日商簿記検定2級受験			
	7	・日商簿記検定2級出題範囲 ・期末確認テスト		まとめ			
2 学 期	9	・日商簿記検定2級出題範囲		第1問 仕訳の問題 第2問 個別・計算の問題		68	
	10	・日商簿記検定2級出題範囲 ・確認テスト		第3問 決算の問題 第4問・第5問 工業簿記の問題			
	11	・日商簿記検定2級出題範囲		第1問 仕訳の問題 第2問 個別・計算の問題 第4問・第5問 工業簿記の問題 日商簿記検定2級受験			
	12	・日商簿記検定2級出題範囲 ・期末確認テスト		まとめ			
3 学 期	1	・日商簿記検定2級出題範囲 ・まとめ		第1問 仕訳の問題 第2問 個別・計算の問題 第4問・第5問 工業簿記の問題 日商簿記検定2級受験		14	
	2						
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		全商簿記実務検定1級の理解を身に付ける。 日商簿記検定2級の基礎理解を身に付ける。			期末確認テスト等による評価 提出課題による評価		
思考・判断・表現		会計の原理を活用しての論理的思考を養う。 財務諸表作成における完成度を養う。 電卓を使用した計算技術身に付ける。			仕訳・帳簿・財務諸表作成技術による評価 提出課題による評価		
主体的に学習に取り組む態度		職業人として必要な人間性を育み、自ら学び、ビジネスの創造と発展に取り組む態度を養う。			出席率・授業態度 提出課題状況等 自主性・正確性等による総合評価		